

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970200139		
法人名	株式会社 徳増工業		
事業所名	グループホーム なかよし		
所在地	高知県室戸市元甲206-1		
自己評価作成日	平成27年10月30日	評価結果 市町村受理日	平成28年1月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、毎朝の朝礼時、理念を唱和するとともに、その日の個人目標を立て、利用者への挨拶から始まり、馴染みの関係を大切に、和やかな雰囲気づくりに配慮している。利用者の皆様は、土地柄もあり、個性豊かな方ばかりで言葉は荒いが気持ちはまっすぐな方が多い。自由に楽しく過ごしていただけるよう個別支援に取り組むとともに、ドライブや地域のイベントへの外出機会を設け、楽しみを感じる暮らしに向けて支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JiryosyoCd=3970200139-008&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JiryosyoCd=3970200139-008&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年12月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自然や地域の人達とふれあいながら、安心してその人らしさが発揮できる日常の支援を行う」ことを理念に掲げ、職員は利用者が家庭的な雰囲気の中で、家事活動や外出を楽しむ支援を行っている。外出を元気に楽しみ、災害時により早く避難するためにも、下肢筋力の維持を目的に散歩や階段昇降など、利用者ができることを日課に取り入れている。食事を楽しむことも大切にし、利用者の希望に沿えるよう献立は柔軟に対応し、食事をおいしく味わうために食事前には必ず口腔体操をして咀嚼力を維持している。

事業所と地域の関係も良好で、保育所や小学校の運動会へ招待されたり、保育園児の訪問があり、事業所開催の敬老会やクリスマス会に地域住民を招待し、祭りには近くの神社から神輿が来るなど地域と交流している。また、管理者は職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、職員会や朝礼では活発な意見やアイデアが出され日々のケアに反映している。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:A・B棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームならではのアイデアで、入居者がほっと安らげる環境づくりを心掛けている。A・B棟共に当日の勤務者が、理念を唱和し、入居者に挨拶を行っている。日常的に理念に沿った支援を心掛けるよう、ユニット毎に、その日の目標を立て実践し、その評価を行い業務日誌に記録している。	「自然や地域の人達とふれあいながら、安心してその人らしさが発揮できる日常の支援を行う」という趣旨の理念を掲げ、朝礼で唱和し、利用者の体調に合わせた支援方法を共有して実践している。介護計画も理念を念頭に検討し、個別記録等で日々実践と評価を行っている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神祭やイベント、保育園や小学校の運動会の見学、踊り等のボランティアの受け入れや、事業所内での行事の際に保育園児に参加していただいている。町内の一斉清掃への参加や、地域の行事への積極的な協力に努めている。	地域の保育所や小学校の運動会に招待され、事業所開催の敬老会やクリスマス会には近隣住民を招待したり、また地域のイベントに参加して交流している。町内会にも加入し、地域の一斉清掃には職員が参加している。住民が立ち寄り、野菜の差し入れなどもある。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム主催のイベントに近隣や地元の方に案内状を配布し、参加・見学していただける機会を設けている。地域住民代表として、運営推進会議に参加していただくことで、ホームの実施内容を理解していただいている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームより、入居者状況や事故状況等活動状況を報告し、参加者からの質問や意見交換をし、改善に向けて取り組んでいる。	会議は2カ月に1回、行政、地域包括支援センター、住民代表、家族を委員として開催し、利用者の近況、外部評価の報告等が行われている。参加者からは運営についての質問や意見が出され、改善に向けて話し合っている。議事録は全家族に送付している。	家族には開催案内をしているが参加が少ないため、日程、開催時間等を検討し、より多くの家族の参加が得られることを期待したい。また併せて、出席可能な利用者の参加についても検討を期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や代表者は、必要に応じて運営及びサービス内容等について、市に相談・話し合いの機会を持っている。	地域包括支援センターが開催する研修会やケア会議に参加したり、入居の相談等により日頃から協力関係を築いている。市担当課とは、介護保険の制度上の相談や話し合いをしている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないよう、職員に周知徹底をしている。職員会議や勉強会の中で、日々のケアを振り返ることで、どのような取り組みやケアを行っているのかを話し合っている。	月1回の職員会で行う研修で「身体拘束をしないケア」について再三取り上げており、職員は身体拘束の弊害等を理解し、拘束のないケアの実践に努めている。日中は玄関に施錠せず職員が見守り、利用者の行動の自由を妨げないようにしている。職員の言葉による行動の制止が見られた時は、管理者がその都度注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会があれば、受講のためのシフト調整を行うこととし、研修内容については全職員が共有できるよう、職員会議の中で研修報告をし、勉強会を開いている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修等には積極的に参加し、職員会議等を利用し、資料にて勉強会を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に契約内容や重要事項等について具体的に説明し、改定をする場合はその根拠理由を丁寧に説明し、承諾して頂いた上で契約を締結している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を常時設置し、意見や要望を聞くことができる体制を整えている。家族からは面会時や家族会等の際、意見や要望を出せる機会を設けるよう取り組んでいる。また、出された意見や要望については、運営推進会議や職員会議で報告・協議し、議事録等を家族に送付している。	年2回家族会を開催し、家族だけで話し合う時間を設けて意見や要望を出す機会を設けている。家族の面会時や家族会で出された意見、要望は職員会で検討し、改善に努めている。利用者からは献立の希望等があり、できるだけ希望に沿えるよう努めている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的、又は臨時で職員会議を行い、意見等を聞ける機会を持てるよう取り組んでいる。また、意見等を出しやすい雰囲気作りに努め、出された意見や要望については、必ず代表者に報告し、必要な業務改善を行っている。	管理者は意見を出しやすい職場環境をつくり、職員会や朝礼では職員からケアに関する活発な意見やアイデアが出され、ケアの向上に反映している。管理者は職員の勤務体制についても職員から意見を聞き、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況については、代表者に月次報告を行い、また、毎日の状況については、定時連絡を行っている。休日の希望や勤務時間については、個々に希望を聞き、シフトの調整を行っている。定期的に給与の見直しを行い、臨時で手当等を支給している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、正規・非正規の区別なく全職員がチームの一員として研修に参加する機会が持てるよう、段階に応じた研修計画を作成し、毎月の勉強会の開催や日々の業務の中でも学べるよう取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会等の研修や、介護支援専門員等の交流会に参加し、同業者と交流する機会を持つことで、サービスの質の向上に繋げている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に楽しく本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に事前に面接の機会を持つことで、要望を聞き、馴染みの関係に近づけるよう努めている。また、入居後も不安感をつのらせることがないよう、受容、傾聴、共感を心掛け、質問や要望に応じている。		
16		<b>○初期に楽しく家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にホームの見学をして頂き、生活の実態を観察して頂いたうえで、利用の決定をして頂いている。面談時にこれまでの経緯や状態について、詳しくご家族や本人に聞くようにしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思いや状況等を確認し、必要があれば他のサービスの利用についてアドバイスしたり紹介している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	深く傾聴することで、本人の話す言葉の意味を考え、同じ目線で共に生活している共同者として接することを心掛けている。また、入居者に対しては、年長者として尊敬する気持ちを常に持つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を知って頂けるよう毎月手紙を書いたり、イベントや家族会への参加を呼び掛けている。その中で、本人とご家族との絆や、ホームとご家族との協力関係を保てるよう努めている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて自宅やその周辺へ立ち寄り、ご家族に限らず、ご友人や知人の方とも会話のできる機会を作っている。	友人が来訪したり、隣接するデイサービスを利用する知人と会話を楽しむなど、馴染みの関係が維持されている。また、自宅周辺へドライブに行ったり、地域のスーパーやよく行っていた本屋に出かけるなど、馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間には、皆で会話をしながらお茶を飲み、歌を歌ったり、トランプ等のゲームをしたり、遊びを取り入れた機能訓練等を行うことで、コミュニケーションを図り、できない部分はできる方が補うことができるよう、職員がパイプ役となり援助を行っている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した際は、面会を通じてご家族と話す機会を持ち、退去後もその後の経過等について連絡をし、相談に応じ、調整や連携が必要な場合は対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの様子や対話等から聞き出し、柔軟に対応している。食事や嗜好、休息などその人のペースに合わせ、のびのび暮していけるよう取り組んでいる。	利用者との日々の会話から希望や意向の確認をしている。意思疎通の困難な利用者は面会時に家族から情報を得たり、表情や行動から汲み取るよう努めている。新たに気づいたことは申し送りや業務日誌、個人記録等に記載し、共有している。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活環境、これまでの経過等について、本人やご家族から聞かせて頂き、関係機関等と連携し必要な情報を頂くことで、それまでの経過や状態・状況の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、目配り・気配り・傾聴・共感することを心掛けている。記載した個人記録により、一日の様子を振り返るよう努めている。又、朝礼時、前日の様子を報告することで、職員が情報を共有し、把握している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや毎日の生活の中で得た情報、ご家族からの要望や意見をもとに、職員会議を行い、介護計画を作成し、ご家族に説明している。計画は、3カ月毎に見直している。入退院等状態に変化があった場合には、その都度計画を見直している。	利用者及び家族の意見、要望を聞き、担当職員の意見や日々の介護記録等をもとにモニタリングした結果や、得られた情報をもとに職員会で協議し、現状に即した介護計画を作成している。3カ月毎の定期見直しのほか、利用者の状況変化時は変化に見合う内容を検討し、計画を変更している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌、申送ノートに記載し、職員全員が確認するよう努めている。また、職員会議の中で出された意見や情報は、会議録を回覧することで再確認している。計画作成担当者を中心に、職員会議やモニタリング内容を基に、必要な介護計画の見直しを行っている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの生活習慣やニーズに合わせ、嗜好や散歩、買い物等、個別支援に取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の踊り等のボランティアや保育所に協力をお願いし、併設事業所と合同でイベントを行ったり、地域の行事へ参加することで、楽しみを感じられるような支援を行っている。また、緊急時には地域の方に協力頂けるよう、消防署立会の避難・防災訓練や救命講習会に参加していただいている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に関しては、本人やご家族の希望する医療機関に受診できるよう支援している。また、看護職員を中心にかかりつけ医と連携している。職員が対応した際の受診結果は、家族に連絡し、受診報告書を通して職員間で共有している。	利用者、家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。現在ほぼ全利用者が協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。通院は原則家族対応であるが、家族の都合により職員が柔軟に対応している。受診結果は受診報告書に記録し、家族や職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員は常に連携し、利用者の健康維持に努めている。利用者の状態に変化がある場合は、看護職員に連絡し指示を仰ぐことで、受診や処置等が受けられるような支援をしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時や入院中は、医療機関や家族と密に連絡を取ることで状態の把握に努め、退院後の支援へ繋げている。特に、協力医療機関とは、往診時に相談したり、日頃から情報交換できるような体制を整えている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合い、事業所ですることを説明している。重度化した場合には、医療機関・家族・事業所間で、今後の方針・方向性について話し合う機会を持っている。	「重度化ケア指針」を作成しているが、医療行為が必要になった場合は対応が困難であることを入居時に家族に説明している。利用者が重度化した時には再度説明し、医療機関や他施設で安心して納得のいく最期を迎えられるよう支援している。	現状は事業所の体制から終末期対応が困難であるが、職員研修や協力医療機関との支援体制を検討しながら、最大限可能な体制整備に向けて取り組むことを期待したい。
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員がすぐ確認できる場所に備え付けている。勉強会を行い、必要な知識を習得し、救命救急講習会へ参加することで、実践に備えた訓練を行っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難場所を把握するため、避難場所への順路を示す地図を掲示している。地域住民の協力者を確保し、定期的に消防署立会により、災害時等の避難訓練、夜間想定避難訓練等を行っている。	年2回、防火訓練を消防署の立ち会いで実施し、地域住民も訓練に参加している。地震・津波想定訓練も地域住民の協力で年1回実施し、避難経路等を確認している。非常用食料、水はそれぞれのユニットで3日分以上を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレ入室の際は、利用者へ声掛けし承諾を得ている。また、人格を尊重し、年長者に対する敬意を表すため、言葉遣いには十分に注意し、丁寧語を使用するよう取り組んでいる。	トイレ誘導時や居室入室時の声掛けなどに、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねない対応をしている。職員には採用時に個人情報の取り扱いの誓約書を取り、個人情報の保護やプライバシーの確保については、所内の職員研修で徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなこと、興味があること、得意なこと等を重視し、一人ひとりの希望を聞くことができるような言葉かけに配慮し、個別レクリエーションや個別支援に取り組んでいる。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、それぞれのペース、その日・その時の希望に十分に沿えるよう対応を行っている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室に來所して頂き、散髪を行っている。また、希望があれば、衣料品店等へ行き、好みのものを自身で選び、買い物できるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表はあるが、旬の野菜や魚の差し入れ等があれば献立を変更したり、利用者の希望や状態を把握し、個別に献立を工夫したり、刻み食やミキサー食、軟飯軟菜等に対応している。また、調理や配膳の手伝いをして頂くことで、食事を楽しんでいる。	献立と食材購入は2ユニット合同で行っているが、食材の差し入れがあれば利用者の希望を聞いて献立に加え、各ユニットで調理している。利用者は野菜を切ったり味付けなど、本人にできることを手伝い、職員と利用者は同じ物を一緒に食べて食事を楽しんでいる。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医より指示、制限のある方以外は、一人ひとりの状態やその時の環境等により、水分量の調整や栄養摂取に取り組んでいる。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	下膳後、声掛け・誘導し、一人ひとりの力に応じた口腔ケア支援を行っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じ、布パンツ、失禁パンツ、尿取りパッド、紙オムツ等、また、日中と夜間帯等、それぞれに適した用品を使用している。日中・夜間帯共に、トイレ誘導の声掛けを行っている。	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、できるだけおむつの使用を減らせるように、トイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレを使用する利用者も、日中はトイレで排泄できるよう自立に向けて支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に関しては、食物繊維をより多く摂取できるように工夫している。散歩への声掛けにより、生活リハビリ室での歩行運動や屈伸運動、階段昇降練習など個別に支援している。また、主治医に相談し、緩下剤投与の支援をしている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けにより、一人ひとりの希望を聞き、意思確認後、行っている。入浴を拒むことがある利用者には、意欲を引き出せる言葉掛けや説明を行うよう支援している。	毎日の入浴や一番風呂など、利用者の希望に合わせて入浴を支援している。全利用者が少なくとも2日に1回は入浴できるよう声を掛けている。入浴を拒否する利用者にも、対応する職員を変えたり、入浴時間をずらすなどの工夫をして、入浴できるように支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休息は、一人ひとりの状態を把握したうえで意思を尊重し、居室の温度調整等に配慮し、安眠できる環境づくりを心掛けている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルの手順に沿った服薬支援を行っている。看護職員を中心に服薬管理や、薬の効用・副作用に関する勉強会を行い、知識を得ている。状態を観察し、現状に変化があれば、その都度主治医の指示を仰いでいる。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが趣味・趣向を楽しむことができ、得意なことや生活習慣を生かした家事やレクリエーションをすることで、楽しさや満足感を味わうことができるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺を散歩したり、量販店への買い物や、自宅周辺へのドライブ等、個別に支援できるように取り組んでいる。	事業所近くの神社への散歩や、買い物ついでに自宅周辺へドライブするなど、利用者の希望に応じて外出している。地域の祭りや花見等の四季折々の外出には、歩行困難な利用者も車いすで一緒に出かけている。家族と一緒に外出に行く利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地元のパン屋の移動販売に来所して頂き、それぞれ好みのパンを購入している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望があれば、家族への電話を取り次いでいる。希望があれば、家族と手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁は、利用者がちぎり絵や折り紙などで壁飾りやカレンダーを作り、季節毎に貼り替えることで季節感を感じられるよう工夫している。温度・湿度の管理・調整を行う取り組みをしている。	ユニット全体の見通しが良く、利用者にとってわかりやすい間取りになっている。居間は日当たりがよく、ゆったりと過ごせるようにテーブルとソファ等の間隔を工夫し、壁には利用者のちぎり絵が飾られ、和みのある雰囲気の利用者と職員が会話を楽しめる場所になっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空スペースに、ソファや畳の間を設置し、自由に過ごせるようにしている。また、食事の時間やティータイムを楽しく過ごせるよう居場所に配慮するよう努めている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前から使用している使い慣れた家具や寝具・テレビ等を居室で使用している。また、居室には、家族との写真等を貼り、穏やかに過ごせるよう工夫している。	居室は清掃が行き届き、使い慣れた筆筒や寝具、テレビ等が置かれ、家族の写真や好みのぬいぐるみなどがベットサイドに飾られて、安心して居心地良く過ごせる居室になっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の出入り口の戸の色を変えたり、目印をつけることで、居室を間違えないよう工夫している。排泄後の手洗いや、食後の口腔ケアは、習慣が身に付くよう声掛け支援をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		